



佐伯発、元気な企業と働く人々をご紹介します。
今回は木材と建材の両輪で事業を大きくしてきたマツオカ。
特注品をつくる技術と若手社員の機動力が光ります。



株式会社 マツオカ

住所：佐伯市西浜 2 番39号
電話：22-2611
FAX：23-2610
URL：http://matuoka.saiki.jp/index.html

代表者：廣瀬 岳
設立年月：昭和30年9月
資本金：2,250万円
売上高：8億円
従業員数：30名

特注品を、早く・安く、仕上げて納める

— マツオカとは

木を加工して販売する製材でスタートした会社ですが、設立から数年後には新建材を取り扱うようになり、現在は木材部と建材部に分かれて業務に当たっています。木材部の製品は、住宅関連は工務店、船の内装材などは造船所へと納めます。建材部は大型物件のほか、住宅のキッチンやサッシ取り付けなど内装と外装の工事を請け負う部署。最近では、さいき城山桜ホールのガラスを手掛けました。

— 技術が光る特注品の製造

工務店や造船所から受ける案件の中には、規格にない寸法の特注品

— 需要が高まるリフォーム工事

近年、需要が高まっているのが住宅改修の工事です。新聞折り込みのチラシに、メーカーの新商品やサービスなどを紹介することで、一般のお客様からの問い合わせが増えました。会社としては木材部・建材部どちらの業務も大切にしながら、佐伯市の新築やリフォームをお手伝いしていきたいです。

木や新建材を熟知して業務をスムーズに

VOL.09

伊藤翼さん(27)
入社8年/建材部



— どんな仕事をしてる？

伊藤さん(以下㊦) 大工さんや家を改修する般のお客様の要望を聞き取って、提案をしているよ。

山本さん(以下㊧) サッシを組んだり、カーポートを設置したり、エクステリアに関する業務が多いな。先輩に教えてもらいながら、経験を積んでいるところ。

小野さん(以下㊨) 木材を決まった長さに切る作業をしているよ。中型トラックに乗って、木材の配達で大分や宮崎へ行くこともある。

も。「他所の製材所にはないものを早く・安く」をモットーに、様々な製品をつくっています。以前、大阪の造船所で使用する滑走台を受注したときには、一枚の大きさが5m x 15mもありました。木に鉄板を巻くため、厚みもあるのです。納品するときには何十台ものトラックに分けて運搬します。

塩月有希さん(27)
入社8年/木材部



塩月さん(以下㊩) 木の製材や製品の選別、梱包をしているよ。以前は補助の役割だったけど、製材をさせてもらえるようになったんだ。

— 会社のことが好き

㊦ 大工さんや一般のお客様と話せるから、いろんな意見を聞けるんだよね。自分の価値観が豊かになっていくのがわかるよ。

㊧ 仕事をしながら自分の技術が磨かれていくこと。網戸の張り替えやサッシの立て付けを直したりできるから、家で役に立つことが増えた(笑) ㊨ たしかに！もともと手先は器用じゃないのに、やり慣れてきた感じ。屋外で重いものを担ぐから、体力が付くし、肌もこんがり焼けちゃう(笑)

㊩ 社内雰囲気がいいよね。仕事のことは親切に教えてもらえるし、休憩中も年齢関係なく、おしゃべりできるし。

㊦ ずっと機械を使う製材をやりたくて、上司から許が出たときは

— 今後、こういう仕事をしたい

㊦ 一般住宅用の建材サッシを学んできたから、次はビル用のアルミや内装材について勉強したいな。

㊩ サッシの寸法を測るといった現地調整ができるようになったから、



スタッフいちおし佐伯スポット さいき城山桜ホール

2020年10月にオープンした複合文化交流施設。市民の憩いの場として、ホールやスタジオ、子育て・子育て支援室、食育活動室など多彩なスペースを設けています。



取り付けも一人でできるように頑張るよ。

㊦ 大工さんに盤木(※1)の加工を習っているから、早く覚えて、社内ですることができるよ。

㊨ もっと木のことを知りたい！品種はもちろんだけど、一本ずつ節や曲がりが違うから、見たり触ったりして捉える感覚を身に付けたいな。そうすることで、仕事がスムーズに進むと思うんだ。

(※1)造船時、船台上で船体を支えるために用いる大きな角材